

## よくあるご質問

**Q** 前回A1だったのに今回A2だったので心配です。

**A** A2のほとんどが小さなう胞です。う胞は幼児期には少なく、年齢が上がるにつれ増え、中学生頃にピークを迎える傾向にあります。う胞はがんになることはありませんので、ご心配はありません。

**Q** 次の検査はいつになりますか？

**A** この甲状腺検査は、20歳を超えるまでは2年ごと、25歳以降は5年ごとに長期にわたって行う予定です。今後、進学や引越等などで皆さんの生活が大きく変わることが想定されます。その際は、下記お問い合わせ先まで住所変更等の手続きを忘れずをお願いいたします。

**Q** 福島県で見つかった甲状腺がんについて、放射線の影響はどうですか？

**A** 先行検査(検査1回目)で見つかった甲状腺がんは、被ばく線量がチェルノブイリ事故と比べて総じて小さいこと、リスクが高いといわれている原発事故当時年齢の低い方の発症が少ないこと、福島県内で発生率に地域差がないことなどから、「総合的に判断して、放射線の影響とは考えにくい」とされています。本格検査(検査2回目)で見つかった甲状腺がんについては、線量の増加に応じて発見率が上昇するといった一貫した関係(線量・効果関係)は認められないこと、発見された甲状腺がんの年齢分布が主に低年齢で多く発見されたチェルノブイリ事故とは異なることなどから、「現時点において本格検査(検査2回目)に発見された甲状腺がんと放射線被ばくの関連は認められない」とされています。しかし、甲状腺への放射線の影響をみるには長い期間が必要です。そのため、希望者に対する甲状腺検査を長期にわたって実施し、今後も福島県の子どもの健康を見守ってまいります。

検査結果の詳細情報の  
入手について

甲状腺検査結果の詳細情報(超音波画像等)について、簡易な手続きで自己情報を取得できます。詳しい内容につきましては、下記お問い合わせ先または(<https://fukushima-mimamori.jp/thyroid-examination/request.html>)までご確認ください。



甲状腺検査結果の  
医学的なご質問等に関する専用ダイヤル

対象の皆さまや、ご家族の皆さまからの検査結果に関するご質問や医学的なご質問にお答えするために、次の専用ダイヤルを設置しております。

**TEL024-573-0205**

(9:00~17:00 土日・祝日・12/29~1/3を除く)

※原則として医師から折り返しお電話を差し上げます。折り返しのご連絡まで数日いただくことがございますので、ご了承ください。



一般的なご質問(次の検査時期や住所変更等)は、右記お問い合わせ先までご連絡ください。

**Q** のう胞や結節ができればどういう症状が出るのですか？

**A** まれに、頸部にしこりが触れたり、飲み込む際に違和感があったりすることがありますが、多くは自覚症状はありません。小さなう胞や結節は、超音波検査でしか観察できないため、検査を継続して受診してください。

**Q** 2年から5年に1度の検査で大丈夫ですか？

**A** のう胞は、中身が液体で良性のものであり、がん化しません。また小さい結節は、のう胞と区別がつかないものも多く、非常にゆっくり育つものが多いため、2年から5年に1回でも十分早期発見となります。

【お問い合わせ先】

福島県立医科大学 ふくしま国際医療科学センター  
放射線医学県民健康管理センター

**TEL024-549-5130** (9:00~17:00  
土日・祝日・12/29~1/3を除く)

※おかけ間違いのないようご注意ください。

甲状腺検査の最新の情報は、下記Webサイトでご覧いただけます。

<https://fukushima-mimamori.jp/thyroid-examination/>



## 甲状腺検査の結果について



同封にてお送りしました、「県民健康調査」甲状腺検査の結果について、より詳しくご説明いたします。

この検査は、甲状腺にのう胞や結節(しこり)などがあるかを調べるものです。のう胞や結節の大きさや状態によって判定し、お知らせしております。

**A判定の方は、二次検査の受診は必要ありません**

**A判定** **A1** のう胞や結節を認めなかった場合

**A2** 20.0mm以下ののう胞や5.0mm以下の結節を認めた場合

**B判定**

20.1mm以上ののう胞や5.1mm以上の結節を認めた場合

**C判定**

甲状腺の状態等から判断して、直ちに二次検査を要する場合

B判定、C判定の方は  
より詳細な二次検査を  
お勧めします

のう胞や結節がどういうものであるかなど、詳しくは中面をご覧ください。

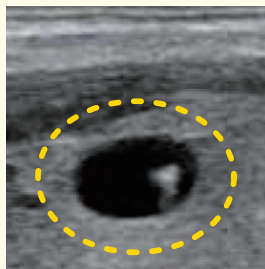
福島県・福島県立医科大学





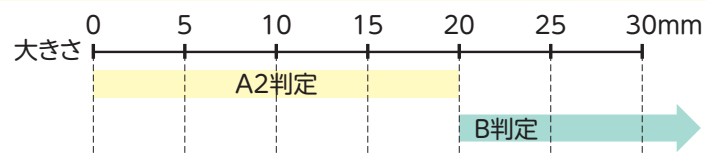
## 「のう胞」と「結節」について

### のう胞



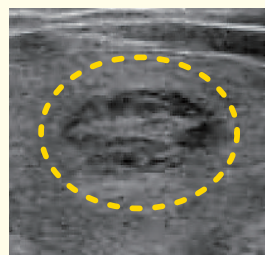
- 袋の中に液体がたまったものです。
- 多くの方が複数もっており、その中でも最大のものの大まかなサイズをお知らせしています。
- 数やサイズが頻繁に変わります。  
小学生～高校生で最もよく見られ、大人になるにつれて消えていくことがあります。

のう胞あり → のう胞なし → のう胞あり



のう胞自体は心配のないものですが、20mmを超えるとどのが圧迫されるような症状が出ることがあります。

### けっせつ 結節 (しこり)



- 中に細胞が詰まっています。
- 良性と悪性(がん)がありますが、多くは良性です。
- 年齢が高くなるほど多くの人に見られます。

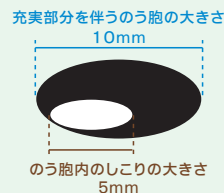


一般的には5.1mm以上の結節が発見された場合は、二次検査での詳しい検査をお勧めしています。

### のう胞の中に結節(しこり)がある場合は？

のう胞の中に中身が詰まった結節の部分(充実部分)がある「充実部分を伴うのう胞」といわれるものは、この検査では全て結節扱いとしています。

例えば… 図のように、のう胞の中にある結節の大きさではなく、結節を含むのう胞全体の大きさを記録します。  
10mmののう胞の中に5mmの結節が認められる場合、「10mmの結節」とみなしています。(=B判定)



## これまでの検査の結果について

### ① 福島県と県外の検査結果の比較

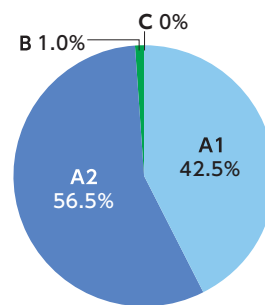
図1は、環境省が平成24年度に実施した福島県外3県(青森県、山梨県、長崎県に住む幼稚園～高校生対象)における甲状腺有所見率調査の検査結果です。

図2と図3は、平成23年度から実施した福島県「県民健康調査」甲状腺検査の先行検査(検査1回目)と本格検査1回目(検査2回目)で検査結果が確定した検査結果内訳です。

それぞれの検査結果を比較すると、A、B、Cの割合に大きな差がないということが分かります。

図1 三県調査

受診者数: 4,365名  
受診時年齢: 3~18歳

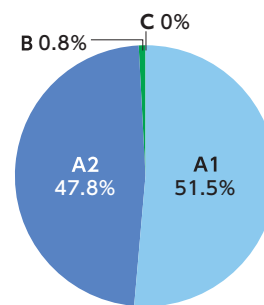


※環境省 平成25年3月29日発表

※四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

図2 先行調査

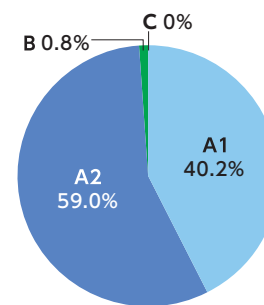
受診者数: 300,472名  
主な受診時年齢: 0~21歳



※平成30年3月31日現在

図3 本格検査1回目

結果判定数: 270,529名  
主な受診時年齢: 2~23歳



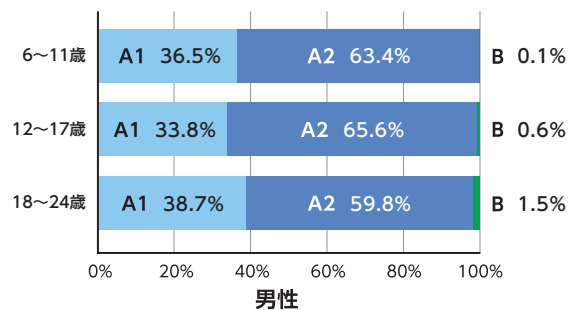
※平成30年3月31日現在

### ② 年代別の結果内訳について

下のグラフは、本格検査(検査4回目)の検査結果確定者の年代別の結果内訳です。

A2の割合は男女とも12~17歳の年代で最も多くなっています。

これは、のう胞が成長に伴って増加し12~17歳にピークを迎え、その後少しずつ減る傾向にあることを反映しています。(グラフの年齢は、本格検査の検査受診時点のもの)



※四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります。

※令和2年9月30日現在

